

平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(朝日町)の概要

11月1日(木)に朝日町の朝日町公民館埋縄分館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「埋縄まちづくり協議会」の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

当日は、参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 定年を契機に、ふるさとの里山づくりに関わりたいと思い、個人的にアジサイを植え始めたのが取組のきっかけだった。しかし、最初の頃は、農道にアジサイを植えると草刈りしにくいし困る、と住民から苦情が出た。その後、区長からまちづくり協議会で一緒にやろうと誘いがあり、それ以来、協議会で取り組んでいる。毎年100本のアジサイを植え、今では500~600本のアジサイの道となった。
- 朝日町は、住宅地の造成により自然が失われつつあるが、埋縄地区にはまだ自然が残っているため、自然を保存・整備していきたい。また、このような取組を通じて住民同士のふれあいの場をつくりたいと思い、現在、埋縄里山花小道の整備を進め

ている。

- 定年となり、社会貢献したいという気持ちを持つ人は多いが、なかなか機会やチャンスがない。地域で気楽に集まれる場があると、そのきっかけになるのではないか。地域の人にアンケートを取り、意見を聞くことが良いと思う。
- 地域づくりには、特技など自分にできることを、できる範囲で参加することが大事。あまり制約されない方が参加しやすい。
- 子どもの見守り隊で活動してきたが、高齢化が進み、活動に参加できる人が減ってきている。多くの人に活動を知ってもらうことや、次を担ってもらえる世代の育成が重要と考えている。そのため、アジサイ祭りなど多くの人に参加しやすい取組を行っている。
- アジサイの植栽など子どもたちと一緒にできる活動は、親もついてくるので参加者が広がる。
- 今の退職世代は、自然とふれあうことが好きな世代。汗をかきながら、人と交流したり、話を聞いてもらえることが喜びである。
- 子どもたちに文化や自然を残していきたい。
- 地域活動を進めるには、皆がもつ特技や能力を知ることが大事。情報ネットワークが重要だ。
- 男性は女性に比べて、交流することが不得手な人が多い。周りを引っ張っていくリーダーの存在が必要。
- 我々が整備しているアジサイロードと、伊坂山村サイクリングコースをつなげる道を整備してもらいたい。山村ダムから朝日町歴史散策コースも含め、一体的な道となる。
- こんなことをしてもらえれば有り難いという要望としては、県道から西の丘陵地を緑地として整備していただければ、高速道路をつたって近隣地域から災害発生時の避難場所としても活用できる。
- 地元企業の雇用が一時期に比べ減ってきている。子どもたちが地元で働けるように雇用創出や三重の魅力づくりをお願いしたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 今日、定年をきっかけに地域活動に参加された方が多い。皆さんは三重県にとっての財産である。県では、今後退職された方のパワーを地域づくりで発揮してほしいと考えている。皆さんの活動が継続・発展していくようにサポートしていきたい。
- アジサイロードと伊坂山村サイクリングコースをつなげる件については、調査して、町とも相談したい。



参加者及び傍聴者の皆さんと

【埋縄まちづくり協議会とは】

朝日町の埋縄地区を流れる南谷川沿いの農道には、平成 11 年頃からゴミなどの不法投棄が多くなり、不審者の姿も見られるなど地域の方も近づかなくなりました。

その南谷川沿いの農道に、平成 18 年頃に個人がアジサイを植樹されたことをきっかけとして、平成 20 年からは埋縄まちづくり協議会の事業としてアジサイなど植樹が行われています。

また、南谷川沿いを中心に休耕田を季節の花畑とし、また蛍の生息地として環境整備を行うことで、現在ではゴミの不法投棄も減り、また不審者の姿もなくなり、地域の方々のウォーキングコースとなっています。

現在、埋縄まちづくり協議会では、南谷川沿いを中心とした花畑等の整備のほか、通学児童の安全確保事業、避難訓練等の実施など防災事業等にも取り組んでいます。